

科目名	コンディショニングⅠ			方法	講義
担当教員	大橋 一麻		実務授業の有無	有	
対象学科	スケートボード学科	対象学年	1学年	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	—	時間数	20時間
授業形態	対面授業と遠隔授業で実施				
授業概要、目的、授業の進め方	<p>人体の特徴、基礎栄養、障害予防方法、応急処置を学び、身体の状態を維持、向上する方法を理解する。スポーツのケガを減らし、安全なスポーツ環境を作るために、スポーツ医学の知識（身体やケガの知識）を習得し①ケガの予防、②ケガからの競技復帰、③競技力の向上、に活かす。</p> <p>パフォーマンスアップに必要な身体の特徴理解を深める。</p>				
学習目標 (到達目標)	身体の基本知識、基礎ケア手法取得、応急処置の基本知識習得				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	スポーツ医学検定公式テキスト2・3級、基礎から学ぶスポーツトレーニング理論				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	RICE処置・応急処置			実技あり、教科書	
2	ストレッチ			実技あり、教科書	
3	基礎栄養と水分補給			5 大栄養素、吸収、分解の仕組み、水分補給、エネルギー	
4	基礎栄養と水分補給			5 大栄養素、吸収、分解の仕組み、水分補給、エネルギー	
5	身体の特徴と基礎			基礎解剖学、可動域、関節の使い方	
6	身体の特徴と基礎			基礎解剖学、可動域、関節の使い方	
7	セルフケア			実技あり、コンプレッション、筋膜リリース	
8	怪我の予防・トレーニング			怪我を防ぐために	
9	怪我の予防・トレーニング			怪我を防ぐために	
10	怪我の予防・トレーニング			怪我を防ぐために	
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
<p>関心・意欲・態度・技能において評価を行う。（出席率80%以上）</p> <p>■成績評価4段階評価 100点満点で評価</p> <p>A（秀 80点以上） B（優 70点以上）</p> <p>C（良 60点以上） D（不可 60点未満）</p>			授業内容は進捗に応じ変更となることもあります。		
実務経験教員の経歴		スノーボード日本代表選手専属トレーナー5年、デフリンピックスノーボードフリースタイル日本代表トレーナー10年			

国際スノーボード&スケートボード専門学校

科目名	コンディショニングII			方法	講義
担当教員	大橋一麻		実務授業の有無	有	
対象学科	スケートボード学科	対象学年	2	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	一	時間数	40
授業形態	対面授業と遠隔授業の実施				
授業概要、目的、授業の進め方	スキー、スノーボードにおける外傷・障害について理解し、障害予防としてケア、コンディショニングの方法を身近な道具を使用し、身体の状態を維持、向上する方法を理解する。前期はアライメントチェックを行い、自身に必要なケア、トレーニング、傾向を理解し、各関節におけるパフォーマンス向上に必要な基礎知識理解を目的とし、後期は障害に対してのセルフケアの方法理解を目的とする。				
学習目標 (到達目標)	自分の体を知り、コンディショニング方法として、道具を使用したセルフケアの方法と、体に対しての基礎知識の習得。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	・入門運動生理学(第3版) ・トレーニング指導者テキスト(理論編) ・パーソナルフィットネストレーナーマニュアルV3				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	アライメントチェック (静的、動的アライメント、柔軟性)		姿勢評価を行う (半袖、半ズボン) カメラ、メジャー、FMSキッド ※フィットネスルーム		
2	解剖学・バイオメカニクス (人体の特徴と名称) ①		実技あり、教科書、映像を用いた動作チェック		
3	解剖学・バイオメカニクス (人体の特徴と名称) ②		実技あり、教科書、映像を用いた動作チェック		
4	基礎栄養①		5大栄養素、吸収、分解の仕組み、水分補給、エネルギー		
5	基礎栄養②		5大栄養素、吸収、分解の仕組み、水分補給、エネルギー		
6	怪我の予防		怪我を防ぐために		
7	怪我からの競技復帰		復帰を早める為に必要な事 (栄養、処置、リハビリ)		
8	怪我からの競技復帰		復帰を早める為に必要な事 (栄養、処置、リハビリ)		
9	トレーニング種類と組み合わせ		各部位のトレーニング方法、セット法		
10	トレーニング種類と組み合わせ方/ピリオダイゼーション		各部位のトレーニング方法、セット法、スケジュールの組み方とピークパフォーマンスの作り方		
11	頭位を位置する胸郭のスポーツにおける重要性について		実技あり、自身の滑走動画比較		
12	頸椎と呼吸法の関係性による柔構造と剛構造の違い		実技あり、チェック方法、トレーニング方法の習得		
13	パフォーマンスを決める手と体幹の位置関係と発揮方法		実技あり、チェック方法、トレーニング方法の習得		
14	骨盤のパフォーマンス向上におけるメカニズム①		実技あり、チェック方法、トレーニング方法の習得		
15	骨盤のパフォーマンス向上におけるメカニズム②		実技あり、チェック方法、トレーニング方法の習得		
16	スポーツ医学検定対策		実技あり、チェック方法、トレーニング方法の習得		
17	スポーツ医学検定対策		実技あり、チェック方法、トレーニング方法の習得		
18	スポーツ医学検定対策				
19	スポーツ医学検定対策テスト				
20	テスト				
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
考査60% (試験60点以下の場合追試対象) 平常点40% (学習意欲、取り組み、理解度、出席率) ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A (秀 80点以上) B (優 70点以上) C (良 60点以上) D (不可 60点未満)			専門用語、ケアの正しい方法の理解、ポイントなど学習内容が非常に多く準備学習が重要となる。		
実務経験教員の経歴		スノーボード日本代表選手専属トレーナー5年、デフリンビクスノーボードフリースタイル日本代表トレーナー10年			

科目名	スケートボードⅠ			方法	実技
担当教員	藤沼 到		実務授業の有無	有	
対象学科	スケートボード学科	対象学年	1学年	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	—	時間数	280時間
授業形態	対面授業と遠隔授業で実施				
授業概要、目的、授業の進め方	スケートボードの技術習得。ライセンス検定を受験し技術、知識を理解し相手に伝えられる力を身につける。動作解析ツールを活用し数値的、理論的分野を学ぶ。				
学習目標 (到達目標)	JSA公認インストラクター資格				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	動作解析、アプリ、足裏センサー				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	オリエンテーション、授業の進め方、教材使用方法		アプリ、動作解析、カメラ操作		
2	前期スケートボード実技②		足裏センサー測定（1回/月）、ライセンス検定		
3	前期スケートボード実技③		ライセンス検定		
4	前期スケートボード実技④		足裏センサー測定（1回/月）ライセンス検定		
5	前期スケートボード実技⑤		ライセンス検定検定		
6	前期スケートボード実技⑥		ライセンス検定		
7	前期スケートボード実技⑦		足裏センサー測定（1回/月）、ライセンス検定		
8	前期スケートボード実技⑧		ライセンス検定		
9	前期スケートボード実技⑨		ライセンス検定		
10	前期スケートボード実技⑩		足裏センサー測定（1回/月）		
11	後期スケートボード実技①		ライセンス検定		
12	後期スケートボード実技②		足裏センサー測定（1回/月）、ライセンス検定		
13	後期スケートボード実技③		ライセンス検定		
14	後期スケートボード実技④		足裏センサー測定（1回/月）ライセンス検定		
15	後期スケートボード実技⑤		ライセンス検定検定		
16	後期スケートボード実技⑥		ライセンス検定		
17	後期スケートボード実技⑦		足裏センサー測定（1回/月）、ライセンス検定		
18	後期スケートボード実技⑧		ライセンス検定		
19	後期スケートボード実技⑨		ライセンス検定		
20	後期スケートボード実技⑩		足裏センサー測定（1回/月）		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。（出席率80%以上） ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A（秀 80点以上）B（優 70点以上） C（良 60点以上）D（不可 60点未満）			授業内容は進捗に応じ変更となることもあります。		
実務経験教員の経歴		デフリンピックコーチ			

科目名	スケートボードⅡ			方法	実技
担当教員	藤沼 到		実務授業の有無	有	
対象学科	スケートボード学科	対象学年	2学年	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	—	時間数	280時間
授業形態	対面授業と遠隔授業で実施				
授業概要、目的、授業の進め方	スケートボードの技術習得。ライセンス検定を受験し技術、知識を理解し相手に伝えられる力を身につける。動作解析ツールを活用し数値的、理論的分野を学ぶ。				
学習目標 (到達目標)	JSA公認インストラクター資格				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	動作解析、アプリ、足裏センサー				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	オリエンテーション、授業の進め方、教材使用方法		アプリ、動作解析、カメラ操作		
2	前期スケートボード実技②		足裏センサー測定（1回/月）、ライセンス検定		
3	前期スケートボード実技③		ライセンス検定		
4	前期スケートボード実技④		足裏センサー測定（1回/月）ライセンス検定		
5	前期スケートボード実技⑤		ライセンス検定検定		
6	前期スケートボード実技⑥		ライセンス検定		
7	前期スケートボード実技⑦		足裏センサー測定（1回/月）、ライセンス検定		
8	前期スケートボード実技⑧		ライセンス検定		
9	前期スケートボード実技⑨		ライセンス検定		
10	前期スケートボード実技⑩		足裏センサー測定（1回/月）		
11	後期スケートボード実技①		ライセンス検定		
12	後期スケートボード実技②		足裏センサー測定（1回/月）、ライセンス検定		
13	後期スケートボード実技③		ライセンス検定		
14	後期スケートボード実技④		足裏センサー測定（1回/月）ライセンス検定		
15	後期スケートボード実技⑤		ライセンス検定検定		
16	後期スケートボード実技⑥		ライセンス検定		
17	後期スケートボード実技⑦		足裏センサー測定（1回/月）、ライセンス検定		
18	後期スケートボード実技⑧		ライセンス検定		
19	後期スケートボード実技⑨		ライセンス検定		
20	後期スケートボード実技⑩		足裏センサー測定（1回/月）		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。（出席率80%以上） ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A（秀 80点以上）B（優 70点以上） C（良 60点以上）D（不可 60点未満）			授業内容は進捗に応じ変更となることもあります。		
実務経験教員の経歴		デフリンピックコーチ			

科目名	イベントプランニング			方法	演習
担当教員	竹内 雄介		実務授業の有無	有	
対象学科	スケートボード学科・スポーツビジネス学科	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	一	時間数	40
授業形態	対面授業と遠隔授業で実施				
授業概要、目的、授業の進め方	実際のイベント開催に向けて、企画の立案、イベント論、宣伝材料の作成（動画やチラシ）、集客、SNS運用を実践します。イベント開催後の報告や仕事につなげるところまでを学習します。				
学習目標（到達目標）	イベントの企画運営を通して、将来使える個人のスキルアップ。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	独自作成資料・Adobeアプリケーション・Officeアプリケーション				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	オリエンテーション、イベント開催までの流れ		イベントや企画をより良いものにするために必要な知識やツールを学びます。イベント開催により学べること、得られることを学びます。		
2	イベント企画		イベントの企画をまとめます。イベント名、概要、定員、参加費、ゲスト、役割、予算、協賛後援、持ち物などを決めます。		
3	イベント企画、宣伝、コミュニケーション		実際のイベント開催に向けて準備を進め、その中で、SNSを活用した宣伝方法やコミュニケーションの拡散方法を学びます。		
4	Adobeアプリ、仕事でのパソコンの使い方、デザイン制作		Adobeアプリの種類と使い分け、仕事でのパソコンの使い方とデータの種類、デザインを作成するときを考えること、過程、作り方を学びます。		
5	illustratorを使った基本操作		illustratorを使用して、イベントロゴやフライヤー、ノベルティを作成します。		
6	イベント準備①		イベントの告知やノベルティの発注、協賛後援のお願いを行います。		
7	撮影		スマホまたは一眼カメラを使った撮影方法と設定を学び、実際に撮影します。		
8	Photoshop、lightroom、Premiereを使った基本操作		前回授業で撮影した写真や動画をPhotoshop、lightroom、Premiereで加工します。		
9	イベント準備②		イベントのリハーサルを行い、不足部分があれば改善します。		
10	反省と次の展開		イベントの反省と次に活かすための報告作業を行います。時間次第で、個人事業主、副業、トリプルワークの働き方、移住と働き方の選択肢について学びます。		
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。（出席率80%以上） ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A（秀 80点以上）B（優 70点以上） C（良 60点以上）D（不可 60点未満）					
実務経験教員の経歴	LRFworksにて企画運営				

科目名	指導演習Ⅰ			方法	演習
担当教員	藤沼 到		実務授業の有無	有	
対象学科	スケートボード学科	対象学年	1学年	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	—	時間数	120時間
授業形態	対面授業で実施				
授業概要、目的、授業の進め方	スケートパーク開放時に、スケートボードインストラクター、パーク運営について必要な技術・知識を身につける				
学習目標 (到達目標)	JSA公認スクールインストラクター、JSA公認パーク運営インストラクター				
テキスト・教材・参考図書・その他資料					
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習①			安全に留意し、実践的な演習を行う	
2	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習②				
3	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習③				
4	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習④				
5	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習⑤				
6	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習⑥				
7	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習⑦				
8	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習⑧				
9	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習⑨				
10	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習⑩				
11	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習①				
12	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習②				
13	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習③				
14	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習④				
15	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習⑤				
16	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習⑥				
17	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習⑦				
18	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習⑧				
19	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習⑨				
20	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習⑩				
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。(出席率80%以上) ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A(秀 80点以上) B(優 70点以上) C(良 60点以上) D(不可 60点未満)			授業内容は進捗に応じ変更となることもあります。		
実務経験教員の経歴		デフリンピックコーチ			

科目名	指導演習Ⅱ			方法	演習
担当教員	藤沼 到		実務授業の有無	有	
対象学科	スケートボード学科	対象学年	2学年	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	—	時間数	120時間
授業形態	対面授業で実施				
授業概要、目的、授業の進め方	スケートパーク開放時に、スケートボードインストラクター、パーク運営について必要な技術・知識を身につける				
学習目標 (到達目標)	JSA公認スクールインストラクター、JSA公認パーク運営インストラクター				
テキスト・教材・参考図書・その他資料					
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習①			安全に留意し、実践的な演習を行う	
2	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習②				
3	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習③				
4	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習④				
5	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習⑤				
6	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習⑥				
7	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習⑦				
8	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習⑧				
9	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習⑨				
10	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習⑩				
11	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習①				
12	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習②				
13	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習③				
14	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習④				
15	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習⑤				
16	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習⑥				
17	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習⑦				
18	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習⑧				
19	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習⑨				
20	スケートボードインストラクター、パーク運営の実践演習⑩				
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。(出席率80%以上) ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A(秀 80点以上) B(優 70点以上) C(良 60点以上) D(不可 60点未満)			授業内容は進捗に応じ変更となることもあります。		
実務経験教員の経歴		デフリンピックコーチ			

科目名	スケートボード実習Ⅰ			方法	実習
担当教員	平野英樹・牛嶋彪・米山漱・小山内修平	実務授業の有無	有		
対象学科	スケートボード実習	対象学年	1学年	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	—	時間数	96時間
授業形態	対面授業				
授業概要、目的、授業の進め方	<p>スケートボード業界の最新情報、技術を身につける。スケートボードデッキ制作、インストラクターとしての知識、技能を習得する。</p> <p>実習場所：村上市スケートパーク</p>				
学習目標 (到達目標)	スケートボード、アクションスポーツ業界を知り、進路決定に結び付ける				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	JSF教則本				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	インストラクター講習、ライセンス検定概要			宿泊含む	
2	スケートボード科学スタッフ検定受検			宿泊含む	
3	スケートボードデッキ制作			宿泊含む	
4	JSAライセンス検定受検			宿泊含む	
5	NTC運営演習			宿泊含む	
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
<p>関心・意欲・態度・技能において評価を行う。(出席率80%以上)</p> <p>■成績評価4段階評価 100点満点で評価</p> <p>A(秀 80点以上) B(優 70点以上)</p> <p>C(良 60点以上) D(不可 60点未満)</p>			<p>授業内容は進捗に応じ変更となることもあります。</p>		
実務経験教員の経歴		日本スケートボーディング連盟にて活動			

科目名	スケートボード実習II			方法	実習
担当教員	平野英樹・牛嶋彪・米山湫・小山内修平	実務授業の有無		有	
対象学科	スケートボード実習	対象学年	2学年	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	一	時間数	96時間
授業形態	対面授業				
授業概要、目的、 授業の進め方	<p>スケートボード業界の最新情報、技術を身につける。スケートボードデッキ制作、インストラクターとしての知識、技能を習得する。</p> <p>実習場所：村上市スケートパーク</p>				
学習目標 (到達目標)	スケートボード、アクションスポーツ業界を知り、進路決定に結び付ける				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	JSF教則本				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	インストラクター講習、ライセンス検定概要				
2	パークマネージャー検定受検				
3	スケートボードデッキ制作				
4	JSAライセンス検定受検				
5	NTC運営演習				
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
<p>関心・意欲・態度・技能において評価を行う。(出席率80%以上)</p> <p>■成績評価4段階評価 100点満点で評価</p> <p>A(秀 80点以上) B(優 70点以上)</p> <p>C(良 60点以上) D(不可 60点未満)</p>			<p>授業内容は進捗に応じ変更となることもあります。</p>		
実務経験教員の経歴		日本スケートボーディング連盟にて活動			

科目名	スケートボード実習Ⅰ			方法	実習
担当教員	藤沼 到		実務授業の有無	有	
対象学科	スケートボード学科	対象学年	1学年	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	—	時間数	84時間
授業形態	対面授業と遠隔授業で実施				
授業概要、目的、授業の進め方	スケートボードを取り巻く環境について学ぶ スケートボードパーク運営・管理の知識・技術を習得する。				
学習目標 (到達目標)	スケートボードの視野を広げ、環境を整える。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	動作解析、アプリ、足裏センサー				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	スケートボードパークの整備				
2	スケートボードパークの整備				
3	スケートボードパークの整備				
4	スケートボードアイテム制作				
5	スケートボードアイテム制作				
6	スケートボードアイテム制作				
7	スケートボードアイテム制作				
8	スケートボードアイテム制作				
9	スケートボードアイテム制作				
10	スケートボードパーク整備				
11	スケートボードパーク整備				
12	スケートボードパーク整備				
13	スケートボードパーク整備				
14	スケートボードパーク整備				
15					
16					
17					
18					
19					
20					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。(出席率80%以上) ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A(秀 80点以上) B(優 70点以上) C(良 60点以上) D(不可 60点未満)			授業内容は進捗に応じ変更となることもあります。		
実務経験教員の経歴		デフリンピック指導歴あり			

科目名	スケートボード実習 II			方法	実習
担当教員	藤沼 到		実務授業の有無	無	
対象学科	スケートボード学科	対象学年	1学年	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	—	時間数	84時間
授業形態	対面授業と遠隔授業で実施				
授業概要、目的、授業の進め方	スケートボードを取り巻く環境について学ぶ スケートボードパーク運営・管理の知識・技術を習得する。				
学習目標 (到達目標)	スケートボードの視野を広げ、環境を整える。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	動作解析、アプリ、足裏センサー				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	スケートボードパークの整備				
2	スケートボードパークの整備				
3	スケートボードパークの整備				
4	スケートボードアイテム制作				
5	スケートボードアイテム制作				
6	スケートボードアイテム制作				
7	スケートボードアイテム制作				
8	スケートボードアイテム制作				
9	スケートボードアイテム制作				
10	スケートボードパーク整備				
11	スケートボードパーク整備				
12	スケートボードパーク整備				
13	スケートボードパーク整備				
14	スケートボードパーク整備				
15					
16					
17					
18					
19					
20					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。(出席率80%以上) ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A(秀 80点以上) B(優 70点以上) C(良 60点以上) D(不可 60点未満)			授業内容は進捗に応じ変更となることもあります。		
実務経験教員の経歴		デフリンピック指導歴あり			

科目名	イベント実習Ⅰ			方法	実習
担当教員	平野英樹・牛嶋彪・米山漱・小山内修平	実務授業の有無		有	
対象学科	スケートボード学科	対象学年	1学年	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	—	時間数	80時間
授業形態	対面授業実施				
授業概要、目的、授業の進め方	大会やイベントの運営スタッフとして実習を行う。大会の運営方法を学び、実践力を身につける。主催者側と連携、打合せを行いながら進める。				
学習目標 (到達目標)	イベントの企画、運営に関する知識・技能を習得する				
テキスト・教材・参考図書・その他資料					
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	X-Games運営スタッフ				
2	JSF主催大会運営スタッフ		2大会		
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。(出席率80%以上) ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A(秀 80点以上) B(優 70点以上) C(良 60点以上) D(不可 60点未満)			授業内容は進捗に応じ変更となることもあります。		
実務経験教員の経歴		日本スケートボーディング連盟にて活動			

科目名	イベント実習II			方法	実習
担当教員	平野英樹・牛嶋彪・米山漱・小山内修平	実務授業の有無		有	
対象学科	スケートボード学科	対象学年	2学年	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	—	時間数	80時間
授業形態	対面授業と遠隔授業で実施				
授業概要、目的、授業の進め方	大会やイベントの運営スタッフとして実習を行う。大会の運営方法を学び、実践力を身につける。主催者側と連携、打合せを行いながら進める。				
学習目標 (到達目標)	イベントの企画、運営に関する知識・技能を習得する				
テキスト・教材・参考図書・その他資料					
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	X-Games運営スタッフ		事前指導		
2	JSF主催大会運営スタッフ				
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。(出席率80%以上) ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A(秀 80点以上) B(優 70点以上) C(良 60点以上) D(不可 60点未満)			授業内容は進捗に応じ変更となることもあります。		
実務経験教員の経歴	日本スケートボーディング連盟にて活動				

国際スノーボード&スケートボード専門学校

科目名	社会人常識マナー			方法	講義
担当教員	福山 泰子		実務授業の有無	有	
対象学科	ウィンタースポーツ学科	対象学年	2	開講時期	特別
必修・選択	必修	単位数	—	時間数	12
授業形態	対面授業と遠隔授業で実施				
授業概要、目的、授業の進め方	概 要 社会人としてのビジネスマナー習得 目 的 社会人常識マナー検定3級合格。 進め方 テキストと過去問題を使用。				
学習目標 (到達目標)	社会人常識マナー検定3級取得				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	全国経理教育協会 社会人常識マナー検定3級、過去問題集				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	検定対策1			テキスト、過去問のポイント解説	
2	検定対策2			テキスト、過去問のポイント解説	
3	検定対策3			テキスト、過去問のポイント解説	
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
考査60% (試験60点以下の場合追試対象) 平常点40% (学習意欲、取り組み、理解度、出席率) ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A (秀 80点以上) B (優 70点以上) C (良 60点以上) D (不可 60点未満)			テキストの内容を把握していること。		
実務経験教員の経歴	18年販売促進コーディネーターの実績、10年リテールマーケティング検定対策(3級2級) 講師としての実績あり。				